Cerebras CS-2 上のプログラミングを支援する並列スケルトン

明治大学理工学部若杉直椰 岩崎英哉

概要

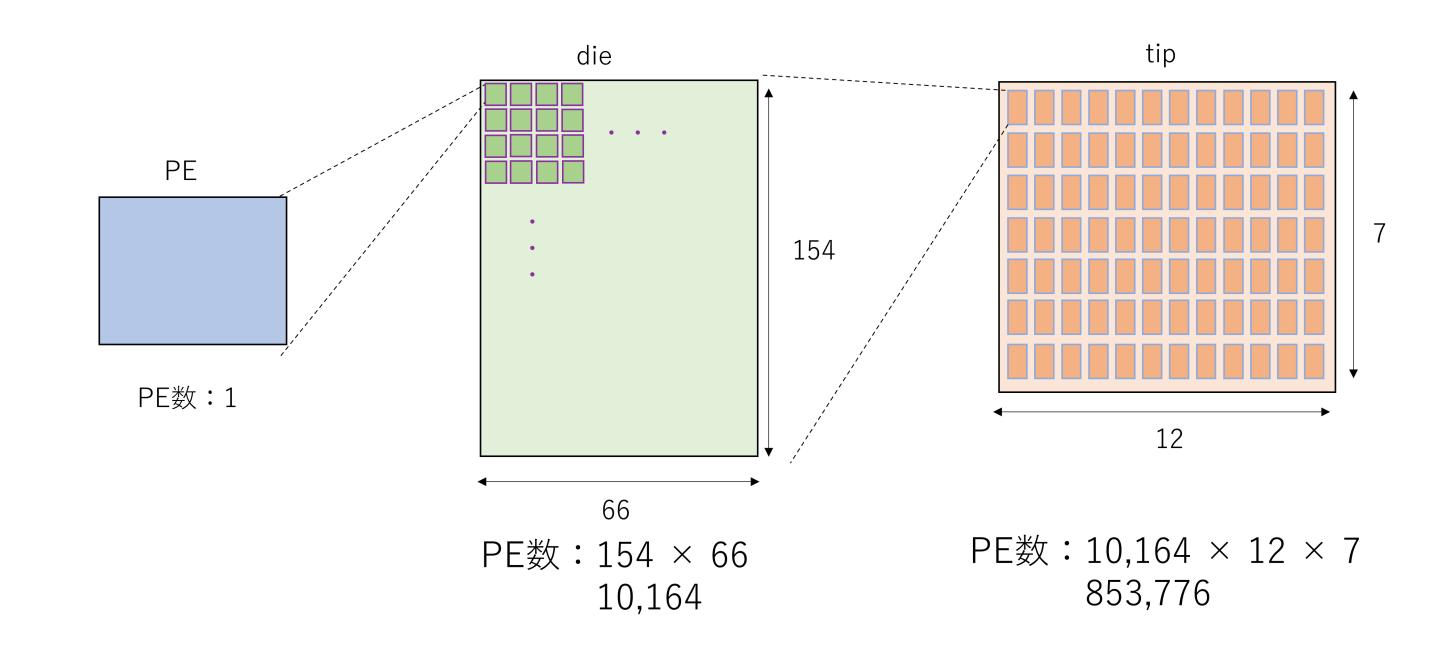
コーディング難易度の高い、機械学習用アクセラレータ Cerebras CS-2 のプログラム開発を支援する.

- ドメイン固有言語 (DSL) を導入し、並列スケルトンを用い て簡潔な記述を可能とした.
- DSLプログラムをCerebras CS-2上で動作するコードに変 換する変換器を実装した.
- いくつかのプログラムを用いて、有用性を評価した。

Cerebras CS-2: アーキテクチャ

大型半導体ウェハスケールエンジン(WSE-2)を搭載した,分 散メモリ型のコンピュータ.

- ダイを切り出すことなく1枚の巨大なチップとすること で,チップ内部で大規模な並列計算を可能にしている[1].
- 密結合なPE同士で通信が完結するため,低レイテンシ通 信が可能である.隣接PEへの通信は1サイクルで可能.



Cerebras CS-2: プログラム開発

以下の三つのコードを書く必要がある

- ホストコード (Python): ホストとデバイス (CS-2) の間の データの授受, CS-2上での関数実行を命令する.
- レイアウト (CSL): 使用するPEのレイアウトや, データの 通信経路を決める.
- PEプログラム (CSL): 具体的なPE内での処理を記述する.

CSLはCS-2上のプログラムを記述する独自の構文を持つ言語 であり,煩雑でハードルが高い.

提案手法1:並列スケルトンの提供

並列スケルトン[2]は、並列プログラミングにおける頻出パ ターンを抽象化してライブラリ関数としたもの.

→ ユーザは、並列スケルトンを組み合わせて、並列性を意 識することなくプログラムを記述できる.

1次元データ用の並列スケルトンとして,以下を提供する.

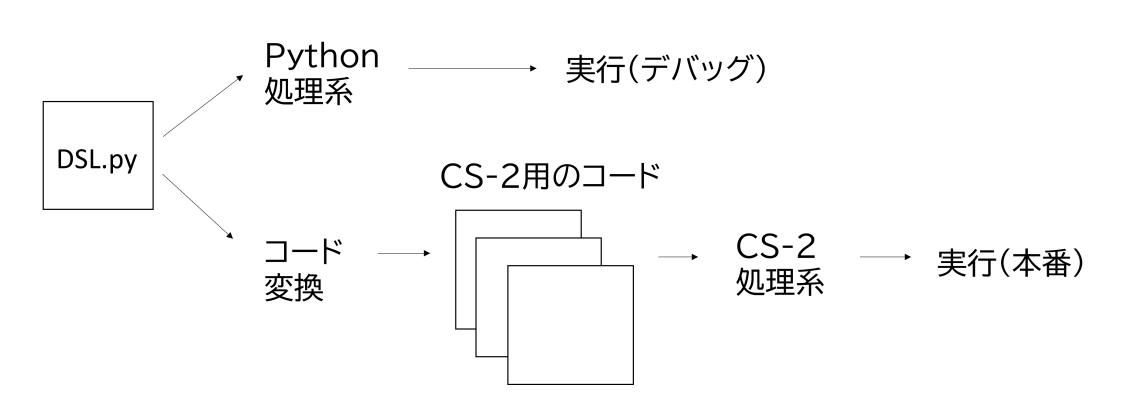
- map: リストに一様に関数適用したリストを返す.
- map_ow:リストを直接書き換えるmap.
- zipwith: 2つのリストに一様に関数適用したリストを 返す.
- zipwith_ow:リストを直接書き換えるzipwith.
- reduce: 結合的な二項演算子を用いて要素を集積する.

2次元データについても同様のものを提供する.

提案手法2:DSLの導入

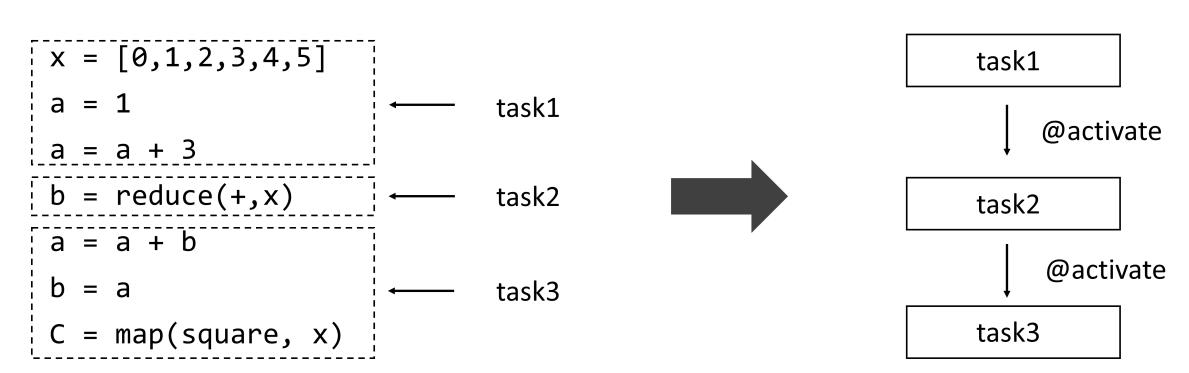
DSLをPythonの内部DSLとして定義する.

- CSLの煩雑な構文を回避する.
- Pythonの処理系による動作確認・デバッグを可能とする.



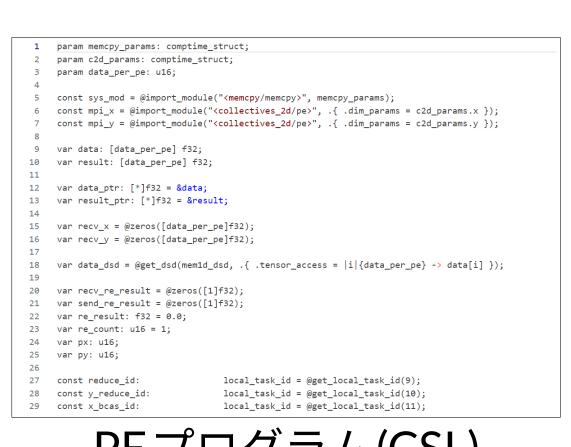
コード変換器の実装

CSLはタスクに基づく<mark>継続渡し形式</mark>でコードを記述する. ⇒ コード変換器は、DSLプログラムの制御フローを解析し、 コードブロックをタスクへ割り当てる.



性能評価

提案したDSLによって,コードを簡潔に書くことができた.



PEプログラム(CSL)

#!/usr/bin/env cs_python
import argparse
import json
import numpy as np
from cerebras.sdk.runtime.sdkruntimepybind import SdkRuntime
from cerebras.sdk.runtime.sdkruntimepybind import MemcpyDataType
from cerebras.sdk.runtime.sdkruntimepybind import MemcpyOrder
<pre>parser = argparse.ArgumentParser()</pre>
<pre>parser.add_argument("name", help="the test name")</pre>
<pre>parser.add_argument("cmaddr", help="IP:port for CS system")</pre>
args = parser.parse_args()
<pre>with open(f"{args.name}/out.json", encoding='utf-8') as json_file:</pre>
<pre>compile_data = json.load(json_file)</pre>
compile_params = compile_data["params"]
<pre>width = int(compile_params["WIDTH"])</pre>
height = int(compile_params["HEIGHT"])
<pre>data_per_pe = int(compile_params["DATA_PER_PE"])</pre>
<pre>length = int(compile_params["LENGTH"])</pre>
data = [1 0 2 0 2 0 4 0 5 0 6 0 7 0 0 0]
data = [1.0, 2.0, 3.0, 4.0, 5.0, 6.0, 7.0, 8.0]
data = np.array(data,dtype=np.float32)
memcpy_dtype = MemcpyDataType.MEMCPY 32BIT
memcpy_dtype = MemcpyDataType.MemcPY_52611 memcpy order = MemcpyOrder.ROW MAJOR
memopy_or der = riemopyor der richt-indon
runner = SdkRuntime(args.name, cmaddr=args.cmaddr)

ホストコード(Python)

1	param WIDTH: i16 ;				
2	param HEIGHT: i16;				
3	param DATA_PER_PE: i16 ;				
4	param LENGTH: i16 ;				
5					
6	<pre>const c2d = @import_module("<collectives_2d params="">");</collectives_2d></pre>				
7					
8	<pre>const memcpy = @import_module("<memcpy get_params="">", .{</memcpy></pre>				
9	.width = WIDTH,				
10	.height = HEIGHT,				
11	});				
12					
13	layout {				
14					
15	<pre>@set_rectangle(WIDTH,HEIGHT);</pre>				
16					
17	var py:i16 = 0;				
18	while(py < HEIGHT) : (py += 1){				
19	var px:i16 = 0;				
20	while(px < WIDTH) : (px += 1){				
21	<pre>const memcpy_params = memcpy.get_params(px);</pre>				
22					
23	const c2d_params = c2d.get_params(px,py,.{				
24 25	<pre>.x_colors = .{ @get_color(0),</pre>				
26					
26					
28					
29	<pre>.x_entrypoints = .{ @get_local_task_id(2),</pre>				

レイアウト(CSL)

DSL

3つのプログラムを対象に、コード長を比較した.

コードの種類	DSL	手書きのコード				
プログラム名	DSL	code.csl	layout.csl	run.py	手書きコード の総和	DSL / 総和[%]
行列積	12	143	43	34	220	5.5
分散	16	158	43	34	235	6.8
モンテカルロ	17	146	44	41	231	7.4

コード長を**約10%**まで減少させることができた.

分散を求めるプログラムにおいて,シミュレータを用いて実 行し,サイクル数を比較した.

コードの種類	サイクル数 [回]	割合
生成コード	7532	121
手書きのコード	6225	100

生成コードのサイクル数は約1.2倍となった.

今後の課題

- map, zipwithの融合等による,実行速度の向上
- 並列スケルトンの拡張

参考文献

[1] Takaaki Miyajima, Ryunosuke Matuzaki, Leon Fukuoka. "STREAM Benchmark on Cerebras WSE-2". ISC 2024. Poster.

[2] 岩崎英哉, 胡振江. "スケルトン並列プログラム". 情報処理. Vol46. No10 pp 1158-1162 (2005)